

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200154		
法人名	社会福祉法人 京都悠仁福祉会		
事業所名	グループホーム鳳凰槇島 (浮舟)		
所在地	京都府宇治市槇島町大川原35-5		
自己評価作成日	令和7年8月15日	評価結果市町村受理日	令和7年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2691200154-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8790京都市下京区西木屋町通上野口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和7年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、入居者の意向を尊重した活動に力を入れている。普段の会話から「行きたい場所」「食べたいもの」を丁寧に聞き取り、それをもとにレクリエーションを企画し、利用者の笑顔につながるよう努めています。また、地域への貢献を大切にし、利用者と共にSDGs活動に取り組むなど、数年にわたり継続した活動を行っている。

家族との面会が自由になってからは、施設の様子を知っていただけるよう、Instagramでの発信にも力を入れている。家族向けだけでなく地域や外部の方々にもご覧いただけるよう工夫し、施設の取り組みを広く共有している。さらに、家族にもボランティアとしてピアノ演奏などで参加していただき、家族と共に本人を支えるケアを実現している。

また、入居後も地域や人とのつながりを大切にし、馴染みの喫茶店への付き添いや友人との面会を支援するなど、その人らしい生活の継続を重視している。

職員にとっても働きやすい職場づくりを進めており、昨年度までは7連休の取得制度を設け、心身ともにリフレッシュできる環境を整えてきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宿木に同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員間で理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和6年6月に開設10周年企画として家族交流会を形式で開催した。開設からあゆみをスライドで紹介し、10月には秋祭りを地域の事業所と住民とともに実施し、約55世帯の参加があった。 また令和7年3月には、近隣のタクシー会社から依頼があり「オレンジリング認知症サポーター養成講」を開催した。 他にも敬老会に園児を招き、地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和7年3月には、近隣のタクシー会社から依頼があり「オレンジリング認知症サポーター養成講」を開催した。 また、4年前よりSDGs活動に力を入れており、入居者と一緒に、身近な資源回収を継続して行い、ペットボトルの蓋を集め、近隣の施設へ定期的に持参したり、牛乳パックを入居者と共にコミュニティセンターの回収ボックスに投入することで、地域への貢献や社会参加につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回地域運営推進会議を開催し、グループホーム内での取り組みや事故・ほつと報告を共有するとともに、地域とのつながりを深めるため、参加者全員から順にご意見をいただけるよう会議を進行している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回宇治市の介護相談員に入居者と対面で話す機会を設けている。 また、地域運営推進会議には宇治市の担当者が出席しており、宇治市主催の意見交換会に参加することで協力関係の構築に努めている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を年2回実施し、毎月の安全対策委員会やグループホーム会議で声かけや介助方法など身体拘束につながる恐れのあるケアについて確認・検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待防止勉強会を実施し、毎月の安全対策委員会やグループホーム会議で虐待につながる恐れのある声かけや介助方法など不適切ケアの可能性について確認・検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教育訓練計画書に基づき、オンライン研修や事業所内勉強会を通じて権利擁護に関する知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定後、契約書および重要事項説明書の内容を十分に説明し、理解・納得の上で契約を結ぶとともに、記載内容に変更がある場合は都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見はがきの送付やご意見箱の設置、年1回の満足度アンケートの実施に加え、面談時にいただいた運営に関するご家族の質問や意見は上司へ報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や運営会議で職員が提案できる機会を設け、コミュニケーションや相談しやすい環境作りに努めるとともに、年2回の人事考課面談や組織活性化プログラムの結果を踏まえた意見交換の場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりの一環として人事考課制度を導入し、資格取得研修費の負担支援など向上心を持って働ける環境を整え、方針展開表に有給休暇取得率70%を年間目標として掲げている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画書に基づき定期研修を実施し、新規採用職員にはプリセプターシップで個々の力量に応じた指導を行うとともに、外部研修への参加機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内外の研修に参加してスキルアップや知識向上に努めるとともに、他施設と協働した地域向け勉強会や交流会を企画している。 外部交流の際には名刺交換やショップカード配布で横のつながりを大切にし、令和6年度にはグループホーム広島大会で夜間入浴の取り組みを発表した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接やカンファレンスで認知症の症状や介助が必要な場面を共有し、環境変化への不安に備えたケアや声かけを行うとともに、得意な家事を一緒に行うことで本人のやりがいにつながる支援を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設の取り組みや提供可能なケアを丁寧に説明し、本人の様子に合わせたケアについて家族と共に考えながら進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接時に在宅サービス継続が難しい理由を確認し、入居後も可能な限り自宅での生活に近い対応ができるよう、本人と家族の思いを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	縫い物や裁縫が得意な入居者にはボタン付けや縫い物を職員に代わって行ってもらったり、調理では昔ながらの方法を教えもらいながら関わることで、入居者の技能や経験を活かした支援を行っている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族ボランティアによる音楽会の演奏をお 願いするほか、家族と本人が安全に外出で きえるよう、日頃から普段の様子や介入が必 要なポイントを共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	学生時代の友人との面会や、毎日通ってい た馴染みの喫茶店への定期的な外出の機 会を設け、家族の協力のもと、以前通ってい た美容室への訪問も支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	認知症の症状によりコミュニケーションが 困難な方に対し、職員が介入して筆談など で意思を確認し、他の入居者との間に入る ことでコミュニケーションの充実を図ってい る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループ内の他施設へ入所が決まった方に ついて、新しい施設への面会やケアに関す るアドバイス・情報提供を行い、新しい環境 に早く馴染めるよう退居時から関わりを持っ ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	夜間入浴や毎日の入浴、食事内容の調整、 外出企画など、普段の会話や家族との相談 を通じて入居者の意向に応じた支援を実施 している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	事前情報やアセスメントを基に昔の生活や 背景を考慮し、現状に合わせたケアプランを 作成するとともに、普段の会話から馴染み の物を見つけられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	認知症の進行や状態を日々の記録で共有 し、必要に応じてカンファレンスを開催すると ともに、月1回の利用者留意事項の話し合い を通じて、できる限り自立した生活が送れる よう支援している。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を基に可能な限り本人の望む生活を実現するケアプランを作成し、状態に応じてレクリエーションや家事への参加を支援するとともに、グループホーム会議やサービス担当者会議で課題やケア方法を多職種と共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉をそのまま記録に残すとともに、記録や日常の会話から意向を汲み取り、ケアプランの見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に自筆の手紙を書いてもらう機会を設けて送付したり、SNSやLINEで施設内の様子や写真を共有するとともに、必要な受診時には家族と協力して付き添い、医療との連携も図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和6年3月にフリーマーケットに入居者と共に参加し、手作り作品や職員提供品の売上を能登半島地震の被災地へ寄付するとともに、『しごとレモン』への参加やこかぶの収穫、季節行事を通じて地域の農家や保育園児との交流の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の変更意向を確認し、変更する場合は協力医療機関の医師と連携して入院後もスムーズに再入居できるよう支援し、変更しない場合でも家族が受診に付き添う際には日常の様子を手紙で医師に伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護小規模多機能型居宅介護の看護職員と常時連絡できる体制を整え、情報を共有することでスムーズな医療提供に努めている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な協力医療機関連携会議で情報共有を行い、状態変化が予想される入居者については事前に様子を共有し、入院時には週1回程度、病院担当看護職員から情報を取得して状態把握に努め、再入居に向けて事前カンファレンスを実施するなどスムーズな受け入れができるよう協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の重要事項説明や契約時に看取り支援を行わないことを説明し、状態変化に応じた次の段階の支援について家族と共に話し合い、関係者と協力して対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの整備や事故時の連絡体制の確立、定期的な訓練や研修を実施し、実際の場面で冷静に対応できるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防防災訓練を年2回、水害対応訓練を年1回実施し、自治会の協力を得て団地の住民や隣接グループホームの参加も呼びかけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育訓練計画書に基づき研修を実施するとともに、職員間で声かけや対応について話し合う場を設け、プライバシーに配慮した対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から入居者の意向を取り入れ、企画に反映するとともに、外出して嗜好品を購入する機会も設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間や入浴時間の希望に沿った支援を行い、その日の気分を考慮して週2回の入浴を促す声かけを工夫し、毎日入浴する方にも対応している。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の化粧を続けられるよう、忘れた際には声掛けで促し、化粧道具が不足した場合は家族に持参を依頼するとともに、自宅近くの行きつけ美容室への外出支援を通じておしゃれが継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から入居者の好みを聞き取りレクリエーションを企画するとともに、スーパーでの買い物や月1回のお弁当選択の機会を設け、食事作りや片付けも入居者と共同で行い楽しみを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方にこまめな声かけを行い、食事形態については医師や看護職員と連携して個々の状態に合わせ、食べやすく好みに応じた形態に工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に歯磨きの声掛けや見守りを行い、口腔内の清潔保持に努め、うがいや歯磨きができない方には職員が介助し、歯の痛みを訴える方には歯科受診への付き添いや家族への依頼を通じて受診対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に可能な限り綿の下着を使用してもらいトイレでの排泄を支援するとともに、状態に変化が見られた場合は都度カンファレンスを開催し、本人の状態に合わせた排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活動作の中で体を動かす機会を設け、体操や室内歩行練習、腹部マッサージに加え、水分摂取も積極的に促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に応じた日時で週2回以上の入浴を実施するとともに、夜間入浴を希望される入居者には夜間に入浴を行っている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間を個々の生活習慣や体調に合わせ、居室の空調管理やタオルケット・寝具の交換なども季節や好みに応じて実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果連絡票に用法・用量を記載して回覧し周知するとともに、日々の状態変化を職員間で共有・確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備が得意な方には職員と一緒にキッチンに入り、役割として毎日参加していただいている。 お小遣いで好きな嗜好品を購入してもらい、食べたいときに提供している。また好きな動画の視聴ができるようセッティングを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望に応じて自然の中のドライブや外食、馴染みの喫茶店への外出など意向を取り入れた企画を実施するとともに、家族の協力の下で自宅訪問や馴染みの美容室への外出も支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーへの外出時にお小遣いの範囲で好きなものを買ってもらい、金銭管理が難しい方には職員と一緒に確認しながら支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際に家族と電話やLINEビデオ通話で話せるよう支援するとともに、字を書くことが好きな入居者には家族との手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月入居者と一緒に季節感のある貼り絵や壁画を作成して共有スペースに飾るとともに、転倒防止のため導線を考慮したレイアウトや、トイレの場所が分かるよう大きな文字の分かりやすい張り紙を設置している。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（浮舟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を把握し、職員が会話に介入するなどして楽しく過ごせる居場所づくりを行い、フロアのレイアウトや食事席の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面接時に自宅で使い慣れた家具や写真の持参をお願いし、居室内の配置について本人や家族と相談の上、心地よく落ち着ける環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の行動パターンを観察し、導線の把握を通じて危険予測を行い、家具の配置や食事席の変更など必要に応じてカンファレンスで検討し工夫している。		